

## 2011.10.19 「T.P.P に断固反対」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は 10 月 19 日、明日 20 日から国会が開かれるということでもあります。ここで第三次補正予算など議論されるわけでありますけれども、それと同時に最大の政治課題となっているのが TPP 問題です。これを来月の APEC までに交渉参加の結論を出したいと野田総理は APEC について前向きな発言をされています。ですが、前回のビデオレターでも申しあげましたけれども TPP は BKD、つまり売国奴、国を売る政策なのだと、絶対断固認められないということをお願いしました。本日もこの問題について少しお話をしたいと思っております。

この TPP とは別に世界中で大きな問題となっているのがいわゆる格差問題を端緒とした暴動であり、デモも起きています。ロンドンでも、それからアメリカでも、ワシントン、ニューヨークで起き、ウォール街が取り囲まれ「グリーード」、つまり貪欲という、そういう者達を追放せよというプラカードが掲げられていたのが象徴的でした。そして、世界中の先進国で格差問題が実は大きな問題となっているのです。なぜこのような問題が出てきたのかということを考えてみますと、この TPP の本質がわかるのです。

TPP を推進される方は、ようするに自由貿易、関税を撤廃し、貿易を自由にしていけばこの社会は豊かになるし、それが当然、世の中の流れになるという

発想なのです。ところが、私はもともと **TPP** に参加をしても、つまり関税を撤廃したとしても日本の貿易輸出が伸びるわけではないと思っております。その理由というのは、日本はいわゆる円高問題で厳しい局面にあるわけですから、相手国の関税が撤廃されたところで、日本製品がそれによって競争力を持つということにはなりませんし、そもそも輸出は増えません。それよりも **TPP** によって日本の農業を始めとする様々な社会のルールまでもが、グローバル化、統一基準にされてしまうと、日本の社会にそぐわない制度がそのまま入ってくる可能性があります。そちらによる損失のほうが巨大なものになるのだということで反対してきているわけです。しかし、そのような具体的に問題点を指摘しましても一般の多くの方の意見というのは自由競争、自由貿易、これが世界の流れだとかこういう風に思いこんでいるし、それが良いことだと思ってしまうているのです。

しかし、今日はそれが間違いだということを言いたいのです。というのは、今の格差問題、これが出てきた原因というのは東西冷戦が終わったことと密接に関係しているのです。皆様方に思い出して頂きたいのですが、東西冷戦が終わったのは、1989年、あのベルリンの壁が崩壊したことが一つの象徴だったわけです。そして80年代から90年代に変わり、世界の転換点の時に、あの東西冷戦の壁が崩壊したのです。そして、ベルリンの壁崩壊によって、なにが起きたのかといいますと、今まで西側諸国は西側諸国の中でだけ貿易をしており、

東側は東側だけで貿易をしていました。それがこの東西の冷戦が終わり、西側から東側に一挙にモノ、お金、人の流れが加速されました。西側諸国というのは基本的に先進国であり、西ヨーロッパ、そしてアメリカ、日本という国々でありました。逆に東側諸国というのは基本的に共産圏の国であり、工業的にも非常に遅れていた国でありました。その国々と一気に貿易が加速されるとどうなるでしょうか。安い人件費、安い原材料がどんどん東側から西側諸国に入ってきて、様々なモノの値段が安くなりました。そして東側諸国からすると、西側から様々な投資があったおかげで国の経済が大きく伸びていきます。そういう良い面が自由貿易によって出てきたわけです。

しかし、これも程度の問題です。これがどんどん進んでいきますと、西側諸国の間では安い労働力がどんどん入ってくる為に、今までの国民の雇用が奪われてしまいます。ドイツでもそれが非常に大きな問題となりました。元々ドイツは労働人口を求め、トルコからたくさんの移民がきていたけれども、東ドイツからどんどんドイツ人が入ってくる。だからもういらない、とこれを排除するようなネオナチの動き等も出てきたり、とにかく東西冷戦で東側の人間が西側に入ってくることによって、西側諸国ではこの大きな雇用問題が生じてきているわけです。

そして、それは日本も例外ではなかったのです。日本はどんどん中国やかつての東側諸国に工場を建て、アジアに進出していったわけです。そこでたくさ

んのものを作って、それを日本に輸入したり、それからまた、現地で消費をしてもらったりと、ものすごい勢いで海外投資は加速しました。そのことによって日本でも産業の空洞化というものが起こってきたわけです。今日、非正規雇用の方がたくさん増えてきています。大学を卒業して新規採用されてもそれが正式採用ではなく期間採用であったり等しますので、経済的な安定性が非常にそがれてしまう。いわゆる派遣で入った人の場合、正規の人と同じ仕事をやっても給料が半分以下だったり等の不利なケースが沢山あるわけで、若年層は結婚することが出来なくなったり、子供を育てることができなくなったり、大きな問題を実は生んでいるわけです。日本はまだ他の国と比べてまだましなのかもしれませんが、間違いなく格差問題は日本の中でも起きている訳なのです。

ということを考えてみると、実は東西冷戦の後、市場が西側だけではなくて東側を含めたグローバルマーケットになって、そして世界経済全体が発展していると思っていれば、実は様々なひずみがでてきている。それがあの、格差反対のデモに表れているという訳なのです。そういうことも含めて考えてみると、日本が TPP に乗り遅れるな、世界がもう FTA とか自由貿易なのだということを言っているのですけども、そもそもその乗っていこうとするバスが、正しいバスだったのかということです。

そして、ヨーロッパではそれを一挙に進めて、EU という一つの国境を越え

た経済圏を作ったわけなのです。関税はもちろんないのですけれども、通貨も一つのものなのです。こういう形になっている。その結果何が起きたかという  
と、ギリシャ問題がおきたわけなのです。つまり、ギリシャというのはヨーロッパのなかでも一番貧しい国、かつては文明が始まったところではありますけれども、いまや一番貧しい状態になっている。その国が西側の先進諸国の一員としてユーロの中に入ってくる。経済力を築いて自分達の国を良くしようと思ったのですけれども、結局財政調達するにもユーロ圏の中に入ると自分達の予算の使い方も制限を受けてくるわけです。ところが、そのことが制限を受けずに、お金をユーロで圏内から借りることによって予算を作るとどういうことになったか。ギリシャ経済は破綻をきたしたのでしょう。そしてギリシャの国債は事実上デフォルトになってしまいうということが言われているわけです。そう  
なってくると、ギリシャだけでなくユーロ圏でギリシャ国債をそれぞれの政府で買っていますから、大変な問題になっている。まさに信用秩序が潰れることによって、リーマンショックの再来、いやもっと大きな問題が起こるかもしれないということになってきています。

この問題を考えますと、見えてくるのは結局自由貿易、一つの経済圏を作っていく、それを一番完成された形でユーロというのはできたわけですが、結局これもうまくいかなかったということなのです。同じようにこれから FTA とか二国間、TPP のように多国間、いろんな自由貿易協定が出てくる。それを

推進しようという方がおられますけれども、私はそれを含めてこの際もう少し慎重に考えるべきだと思います。自由貿易をまったく否定するつもりはありません。今更鎖国に戻れといっても出来ないわけです。しかし、かといって自由貿易をどんどん認めていけば人間が豊かになるかと言えばそうじゃない。要は程度の、スピードの問題なのです。今のように東西冷戦が終わって、この20年の間にあっという間に資本や技術、人がどんどん世界中で行きかかっていくようになると、後進国も短期間で成長することができるでしょう。そして先進国も後進国の資源を使うことができる。ウィンウィンのように見えていたのだけれども、そのことによって急激な交流が格差を生んでしまう。先進国では会社を経営している一部の資本家はこれで大儲けすることができますが、多くの若者は職を失ってしまうことになる。そして後進国のほうが海外からの投資を受けて、そこで働いている方々はそれなりに豊かになっているかもしれない。けれども、中国を見ればわかるように、それはほんの一部なのです。13億の中の1億の人は豊かな生活をし出したけれども、残りの10億以上の方はずっと前と同じなのです。格差問題が取り上げられず、中国で収まっているというのはまさに中国では共産党という強権的な政党が政治を握っているからです。ロシアも同じことが言えますね。プーチン、メドジェーベフこの体制がこれからも続いていく。強権的な体制を維持することによって、そういう国内の様々な格差の問題を抑え込むしか実は手がないということなのです。そういうことを考え

てみると、**TPP**の問題の本質、すなわち東西冷戦が終わってからの世界の動きの中でグローバル化を当然のこととしてみんなとらえてきた、このことを我々はもう一度冷静に、真剣に見詰め直さないといけません。バスに乗り遅れた、乗り遅れるなという論法は全く世の中の本質を見ていないし、それこそ政治家として私は失格だと思うのです。野田総理はこのような問題を本当に考えたことがあるのだろうか。恐らく全くなにも考えてないと思うのです。民主党の前原政調会長を始め、**TPP**お化けだなんていっていますけれども、そういうことを考える頭の中こそお化けが出ているのじゃないかと言いたくなるのです。いずれにしても、世界のグローバル化、貿易自由化、そのスピードを上げていると誰も得をしないということです。世の中全体の秩序が崩壊しておかしいことになります。実は今世界で起こっているのはそれに対する抗議のデモがあちこちで起こっているのだということを皆様方に是非知って頂きたいと思います。また明日からの国会が始まりましたら、私もいろんな機会でこの問題を取り上げて行きたいと思います。今後ともご支援よろしく申し上げます。

ありがとうございました。